

秋田職能短大 人材育成の特徴紹介

石田大館 進路担当者らに説明会
市長講話

秋田職業能力開発短期大学校（中村雅英校長）は15日、大館市の同短大で教育関係者を対象にした説明会を開いた。高校の進路担当者のほか、今回から参加対象に加わった高校PTAの役員、ハローワークの職員も含めて19人が参加。講話や施設見学を通して、同短大の取り組みや人材育成の特徴について理解を深めた。

進路指導に役立ててもらい、ものづくりの現場で必要な人材を知ってもらう狙いで毎年開催。これまでは高校の進路担当者向けだったが、社会人の学びの場として自己推薦入



石田市長の講話などを行った説明会（秋田職能短大）

試、事業主推薦入試も設けているため、PTA役員やハローワーク職員も対象に加えた。中村校長はいささつで「高度なものづくりを支える人材育成を行っている。講義と実験・実習を融合させ、学生に頭と体で理解してもらうのが方針。職場への定着率が高いのも特徴」とアピールした。

大館市の石田健佑市長が講演。短大について「ものづくりを通じて街づくりをできるのが魅力」と話し、大館城外

観の3D（3次元）画像データを制作した学生の研究成果を紹介。「人口が減少する中で、日本にある価値は目の前の技術。これからは地方の資源と技術をかけ合わせ、行政と民間が手を取り合い、大館から日本の未来を変えていくようなモデルを構築したい」と述べた。市長を目指した思いなども紹介した。

参加者は各学科の施設も見学。同校の教育訓練や進路指導についても教わった。